

平成30年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

情報分野のための機動的な産学連携体制の構築と 効果的な教育体制・手法の検証事業

成果報告

平成31年2月8日



一般社団法人

全国専門学校情報教育協会

Institute for Vocational College.
Information Technology Education

<https://www.invite.gr.jp>

取組概要 |

●ICTの急速な進化

※ハードウェアの高性能化・大容量化、モバイルデバイスの普及、通信環境の進展、GPSやデジタルビデオ網等のインフラ整備、IoTの進展等

●クラウドコンピューティング、ビッグデータとAI(人工知能・ディープラーニング)、SNS等の出現

●社会のあり方が大きく変化(あらゆる領域にITが活用される社会)

●IT技術者に求められる能力も大きく変化

ITのような技術進歩の著しい分野の人材育成

- 産業界と緊密な関係性を構築
- 産業界の教育活動への協力と参画
- 産学の連携維持・継続

重要

取組概要 II

IT関連で最も多くの人的資源が求められる

- 「情報システム開発」
- 「IoT／ビッグデータ」
- 「セキュリティ対策」

上記3カテゴリについて産学連携教育の体制構築を行う→取組みの成果をもとに他の領域へも展開

具体的な実施事項

- 概ね5年後の育成人材像の明確化
 - 産学連携教育のありたい姿の明確化
- ↓
- 産業界と連携した職業教育の目標とビジョンの設定
 - 目標達成のための教育プログラムの整備
 - 産官学が果たすべき役割や連携のあり方の調査・研究
 - 効果的な教育を行うための体制構築と手法の整備

ガイドラインの作成・整備

産学連携教育の継続につながる体制構築

実施体制

●教育機関
専修学校(当会役員および会員校)
大学等

●産業界
(一社)コンピュータソフトウェア協会
(一社)北海道IT推進協会、(一社)東京都情報産業協会
(一社)Rubyビジネス推進協議会 他、業界団体、企業

●行政・行政機関
経済産業省 近畿経済産業局
(独)情報処理推進機構

教育機関における職業教育、今後の施策、産業界の人材ニーズ、今後の産業動向、必要人材の方向性、新入社員に不足する知識・技術、新入社員教育とOJT、産学連携の方向性等の情報共有と今後の在り方の検討、および体制構築の検討

●IT分野産学連携教育手法の開発(デュアル推進事業)

●IT分野人材育成協議会(産学連携教育体制整備)

調査研究委員会

●IT人材ニーズ調査
主な調査内容:
・人材像の明確化
・ICTの活用環境や技術内容をできるだけ正確に把握及び予測するための情報集約

カテゴリ別人材育成ワーキング

情報システム開発人材育成ワーキング

IoT/ビッグデータ人材育成ワーキング

セキュリティ対策人材育成ワーキング

●カテゴリ別の育成人材像の設計

●カテゴリ別の産学連携教育の在り方の設計

連携

●産学連携教育の実証(協力校)

情報システム開発
教育プログラム開発と実証事業

●AI(ディープラーニング)技術者育成

●ブロックチェーン技術者育成

IoT/ビッグデータ
教育プログラム開発と実証事業

●コネクティッド・ホーム技術者育成

●IoT技術者育成

セキュリティ対策
教育プログラム開発と実証事業

●情報セキュリティ技術者育成

●カテゴリ別の産学連携教育プログラム開発
●カテゴリ別の産学連携教育の実証
●カテゴリ別の教員必要能力と研修会の設計

育成人材像と産学連携
教育のありたい姿の
明確化

効果的な教育を行うため
の体制や手法等の
研究

必要な施策の立案と
計画の策定

教育プログラムや教材の
開発及び実証
教員研修の実施

教員の育成

IT分野の機動的な産学連携体制の構築と継続

必要人材の育成と産業界への供給

活動内容 |

29年度	30年度	31年度(予定)
<ul style="list-style-type: none">・IT技術動向の把握 等 IT企業へのヒアリング等により今後のIT技術動向等を把握 <p>※ヒアリング事項: 現在、将来の技術動向、採用時に求める技術水準、現担当者の技術水準、担当者の育成方法、専修学校教育への要望 等</p>	<ul style="list-style-type: none">・IT企業等へのアンケート調査・産学連携教育の事例調査・育成人材像の明確化 技術動向を踏まえて、専修学校が育成を担うべき人材像、人材ゾーンを明確化	<ul style="list-style-type: none">・産学連携教育の将来像の提示 育成人材像に合わせて、必要なスキルを、いつまでにどのように身に着けさせるのかを整理・産学連携ガイドラインの作成 必要な産学連携体制の構築手法、効果的な教育手法、その実施方法を整理し、具体の事例とともに明示・活動の継続と発展のための組織体制構築 本事業活動の継承のため、本会に特別委員会の設置を検討 産学連携体制構築の検証を通して、他のコンソーシアムとの連携を推進 説明会、研修会等を開催し、参画する専修学校、企業等の拡大を促進

今後の予定(次年度以降の計画)

●専修学校の教育領域の明確化

※今後必要となるIT分野の必要人材全体の中で専修学校が教育を担う領域を提示
主にテク/ロジスト、テクニシャン等の技能ベースの技術・人材の領域を想定
また、既存技術者等の再教育の技術領域も検討

●必要人材の育成に関する産学連携教育の実証検証

※必要人材像の知識・スキル・レベル等の検証と産学連携教育手法の実証

●教員育成

※産学連携を担う教員の育成研修会実施

●産学連携教育の体制構築・整備

※各専修学校が産学連携教育の体制を整えるためのガイドラインの作成

●本事業の活動の継続と発展のための組織体制構築

※本事業の成果の専修学校への普及と活用 及び ガイドライン・教育プログラム等の更新

成果報告

- 人材二一ス調査……………吉野 忠男教授
(大阪経済大学 経営学部)
- 産学連携教育事例調査……………吉野 忠男教授
(大阪経済大学 経営学部)
- 育成人材像……………株式会社ウ千々人材開発センター